

ブルース・クレイドル バイオグラフィー

ブルース・クレイドル、有名なヒット曲の優れたカバーによって「ブルース・ザ・ヴォイス」としてその名が知られるようになり、様々なバンドや世界的なスター達と競演するようになった。2005年5月にドルンビルンでジョー・クッカーの前座として「Name Live」バンドのメインボーカルを務め、2006年8月にはウィーンでTOTOのスペシャルゲストとして演奏した。Status Quo, Jamiroquai, BAP, Dr. Feelgood, DJ Boboなどの著名なアーティストと競演するなど豊かなキャリアを持つ。

2007年末より、ブルース・クレイドルは、自作の曲に重点を置くようになり、2008年には彼の作品は、オーストリアのオンライン・ソングコンテスト「Zukunftsmusik (未来の音楽) .at」で2位に輝いた。2009年に、ヒット曲「She's Gonna Be Mine」と4つのボーナストラックを含むアルバムが発売された。2010年1月には、ハイチの地震の犠牲者のために作った「Song for Haiti (Time to Give)」が、カリタスのチャリティーキャンペーンのオフィシャルソングとして採用された。ファンは彼の歌手、ソングライターとしての才能をますます高く評価し、注目している。

2010年10月にブルースは、彼のバンド「ブルース・クレイドル・バンド」を厳選したファンに披露して、大成功を収め、さらなる飛躍を遂げた。このショーは三台のテレビカメラで撮影され、「ブルース・クレイドル・バンド」は国際的な舞台での成功が約束されていると報道された。

バンドのそれぞれのメンバーは、ミュージックシーンで長いキャリアを積んでおり、培われた経験のすべてと、モットーである「心、情熱、ロックンロールの魂」をエネルギーにステージに投入する。メンバーの個性の複合効果により、バンドが本来あるべき姿、ロックンロール・ソングライティングにおける卓越した才能が様々な形で活かされたクリエイティブなフォーメーション、となることが可能になった。